

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 北陸財務局長

【提出日】 平成30年2月14日

【四半期会計期間】 第43期第2四半期(自平成29年10月1日至平成29年12月31日)

【会社名】 株式会社アイ・オー・データ機器

【英訳名】 I-O DATA DEVICE, INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 瀨田尚則

【本店の所在の場所】 石川県金沢市桜田町三丁目10番地

【電話番号】 (076)260-3377

【事務連絡者氏名】 社長室室長 真田秀樹

【最寄りの連絡場所】 石川県金沢市桜田町三丁目10番地

【電話番号】 (076)260-3377

【事務連絡者氏名】 社長室室長 真田秀樹

【縦覧に供する場所】 株式会社アイ・オー・データ機器 東京オフィス
(東京都千代田区神田須田町一丁目23番地1)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第42期 第2四半期連結 累計期間	第43期 第2四半期連結 累計期間	第42期
会計期間		自 平成28年7月1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年7月1日 至 平成29年12月31日	自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日
売上高	(百万円)	23,424	27,273	48,461
経常利益	(百万円)	1,218	1,136	2,361
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	948	754	1,800
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	2,200	932	2,831
純資産額	(百万円)	22,394	24,508	23,024
総資産額	(百万円)	35,038	38,255	34,946
1株当たり四半期(当期)純利益 金額	(円)	74.10	56.73	140.74
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	63.7	63.7	65.6
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	166	342	376
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	449	646	847
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	191	527	192
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	6,030	6,139	5,874

回次		第42期 第2四半期連結 会計期間	第43期 第2四半期連結 会計期間
会計期間		自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	38.34	32.58

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 4 当社は「株式付与E S O P信託」を導入しており、1株当たり四半期(当期)純利益金額の算定の基礎となる期中平均株式数は、その計算において控除する自己株式に当該信託が保有する当社株式を含めております。なお、当該信託は、平成29年9月20日をもって信託期間が終了しております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢の改善により回復基調を辿りました。しかしながら、海外の政治経済情勢の不安定性や地政学リスク等への懸念から、依然として景気の先行きには不透明感が残りました。

当社グループに関係するPCや家電、スマートデバイス等のデジタル機器の国内市場では、スマートデバイスの普及一巡やパソコン関連の不振等から全般に伸び悩みましたが、働き方改革を背景にした企業のIT投資意欲の高まりや、海外で人気を集めるAIスピーカーの登場等を通じて、デジタル社会の新展開を探る動きは活発化し始めました。

このような状況の下、当社グループは、商品・サービスの拡充を通じて変化する市場のITニーズ獲得に努めるとともに、スマートホーム・IoT等の新市場の創造に努めた結果、前年同期比増収となりました。しかしながら、利益面につきましては、前年同期に比べ為替は円安に推移し原価が上昇した影響から減益となりました。

以上により、当第2四半期連結累計期間の売上高は272億73百万円（前年同期比16.4%増）、営業利益は11億18百万円（前年同期比15.3%減）、経常利益は11億36百万円（前年同期比6.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は7億54百万円（前年同期比20.4%減）となりました。

当第2四半期連結累計期間の営業の概況を品目別に説明いたします。

[メモリ]

当部門の売上高は18億11百万円（前年同期比54.8%増）となりました。

前年同期との比較において、メモリモジュール、メモリカードやUSBメモリ等のフラッシュメモリとともに半導体市場に連動した販売価格の上昇により増収となりました。メモリモジュールの販売は伸び悩みましたが、フラッシュメモリは普及帯モデルを中心に好調に推移しました。

[ストレージ]

当部門の売上高は68億76百万円（前年同期比15.1%増）となりました。

前年同期との比較において、主力のハードディスク、光ディスクドライブとともに販売台数・単価は上向き増収となりました。光ディスクドライブでは、ポータブルブルーレイドライブ、「CDレコ」シリーズ（音楽CDを直接スマートデバイスに取り込み・楽しむことをコンセプトにした独自商品）とともに販売が伸びました。

[液晶]

汎用モデルのトップシェア堅持に励むとともに、4K対応モニターを始めとする大型モデルや高解像度モデルの充実を通じて、PCゲーム用モニターの市場シェア獲得、デジタルサイネージの導入提案やタッチパネル化オプション「てれたっち」を用いた電子黒板化提案等を着実に進めた結果、当部門の売上高は59億57百万円（前年同期比11.2%増）となりました。

[周辺機器]

前年同期との比較において、映像関連分野は増収、ネットワーク分野は僅かながら減収となり、当部門の売上高は36億80百万円（前年同期比1.2%増）となりました。

映像関連分野は、秋のゲームショーで注目を集めたゲーム実況動画の制作ユニット「GV-HDREC」や、スマートデバイスによるモバイル視聴スタイルの普及を目指した地デジチューナー「REC-ON」シリーズの拡販が奏功しました。ネットワーク分野は、無線LAN等ネットワーク製品、NASともに新モデル・サービス開発に努めましたが増収に至りませんでした。

[特注製品]

デジタル家電関連や通信事業者向けのOEMや特注製品の販売を主とする当部門は概ね堅調に推移し、売上高は2億73百万円（前年同期比10.2%増）となりました。

[商品およびその他]

自社のラインナップを補完する他社ブランド商品の販売を主とする当部門では、サムスン電子製フラッシュメモリやスマートフォン関連商品、Verbatim®（バーベイタム）ブランド商品等の販売好調により、売上高は86億73百万円（前年同期比23.3%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて33億9百万円増加し、382億55百万円となりました。これは、受取手形及び売掛金が24億91百万円、下期稼働予定の基幹システム導入等にともない無形固定資産が4億8百万円増加したこと等によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べて18億25百万円増加し、137億47百万円となりました。これは、支払手形及び買掛金が13億98百万円増加したこと等によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べて14億83百万円増加し、245億8百万円となりました。これは、剰余金の配当により利益剰余金が3億22百万円減少したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益7億54百万円の計上と、日立マクセル株式会社（現マクセルホールディングス株式会社）との資本業務提携およびESOP信託制度の従業員への株式付与にともなう自己株式の処分により、資本剰余金が3億57百万円増加、自己株式が5億15百万円減少したこと等によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べて2億64百万円増加し、61億39百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は3億42百万円（前年同四半期は1億66百万円の獲得）となりました。これは、税金等調整前四半期純利益11億36百万円の計上、仕入債務の増加14億2百万円、棚卸資産の減少1億83百万円による資金増加と、売上債権の増加24億18百万円による資金減少によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は6億46百万円（前年同四半期は4億49百万円の使用）となりました。これは、有形及び無形固定資産の取得による支出6億23百万円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果獲得した資金は5億27百万円（前年同四半期は1億91百万円の使用）となりました。これは、自己株式の処分による収入7億99百万円、配当金の支払による支出3億21百万円等によるものであります。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの経営方針・経営戦略等について、重要な変更はありません。

(5) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(6) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は5億29百万円であります。なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	41,000,000
計	41,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	14,839,349	同左	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は 100株であります。
計	14,839,349	同左		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年10月1日～ 平成29年12月31日		14,839		3,588		1,000

(6) 【大株主の状況】

平成29年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
細野 昭雄	石川県金沢市	2,514	16.94
公益財団法人 I - O DATA 財団	石川県金沢市桜田町 3 丁目10番地	2,000	13.47
細野 幸江	石川県金沢市	763	5.14
マクセルホールディングス株式会社	京都府乙訓郡大山崎町字大山崎小字小泉 1	740	4.98
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海 1 丁目 8 - 11	414	2.79
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	東京都港区浜松町 2 丁目11番 3 号	361	2.43
株式会社北國銀行	石川県金沢市広岡 2 丁目12番 6 号	306	2.06
有限会社トレント	石川県金沢市上堤町 1 35	269	1.81
三菱ケミカルメディア株式会社	東京都千代田区神田小川町 3 丁目20 第二龍名館ビル 8 階	200	1.34
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	PALISADES WEST 6300,BEE CAVE ROAD BUILDING ONE AUSTIN TX 78746 US (東京都新宿区新宿 6 丁目27番30号)	184	1.23
計		7,755	52.19

(注) 当社は自己株式1,207,287株を保有しておりますが、当該自己株式数は議決権の行使が制限されるため、上記の大株主から除いております。なお、発行済株式数に対する所有株式数の割合は8.13%であります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,207,200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 13,616,900	136,169	
単元未満株式	普通株式 15,249		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	14,839,349		
総株主の議決権		136,169	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が300株(議決権3個)含まれておりません。

2 「単元未満株式」には当社所有の自己株式87株が含まれております。

【自己株式等】

平成29年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社 アイ・オー・データ機器	石川県金沢市桜田町 三丁目10番地	1,207,200		1,207,200	8.14
計		1,207,200		1,207,200	8.14

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成29年10月1日から平成29年12月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成29年7月1日から平成29年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,874	6,139
受取手形及び売掛金	11,022	13,513
商品及び製品	8,357	8,126
原材料及び貯蔵品	1,889	1,937
その他	1,293	1,459
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	28,436	31,176
固定資産		
有形固定資産		
土地	2,880	2,880
その他(純額)	867	929
有形固定資産合計	3,748	3,810
無形固定資産	627	1,035
投資その他の資産		
その他	2,151	2,249
貸倒引当金	17	15
投資その他の資産合計	2,133	2,233
固定資産合計	6,509	7,079
資産合計	34,946	38,255
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,977	9,375
短期借入金		50
未払法人税等	445	389
ポイント引当金	4	4
賞与引当金		117
株式給付引当金	78	
その他	2,944	3,358
流動負債合計	11,449	13,294
固定負債		
役員退職慰労引当金	109	83
リサイクル費用引当金	305	312
製品保証引当金	17	17
その他	40	38
固定負債合計	472	452
負債合計	11,921	13,747

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,588	3,588
資本剰余金	4,242	4,600
利益剰余金	15,759	16,191
自己株式	1,237	721
株主資本合計	22,352	23,657
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	231	327
繰延ヘッジ損益	233	210
為替換算調整勘定	113	172
その他の包括利益累計額合計	578	710
非支配株主持分	94	139
純資産合計	23,024	24,508
負債純資産合計	34,946	38,255

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成28年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年7月1日 至平成29年12月31日)
売上高	23,424	27,273
売上原価	18,230	22,330
売上総利益	5,193	4,942
販売費及び一般管理費	3,873	3,824
営業利益	1,320	1,118
営業外収益		
受取利息	1	3
仕入割引	24	36
為替差益		12
持分法による投資利益	5	12
その他	34	37
営業外収益合計	65	102
営業外費用		
支払利息	0	0
為替差損	97	
売上割引	64	81
その他	5	2
営業外費用合計	167	84
経常利益	1,218	1,136
税金等調整前四半期純利益	1,218	1,136
法人税、住民税及び事業税	423	336
法人税等調整額	178	0
法人税等合計	244	335
四半期純利益	973	800
非支配株主に帰属する四半期純利益	25	45
親会社株主に帰属する四半期純利益	948	754

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成28年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年7月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	973	800
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	133	96
繰延ヘッジ損益	794	23
為替換算調整勘定	267	57
持分法適用会社に対する持分相当額	32	2
その他の包括利益合計	1,227	132
四半期包括利益	2,200	932
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,175	886
非支配株主に係る四半期包括利益	25	45

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成28年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年7月1日 至平成29年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,218	1,136
減価償却費	107	122
受取利息及び受取配当金	6	8
支払利息	0	0
売上債権の増減額(は増加)	3,018	2,418
たな卸資産の増減額(は増加)	1,110	183
仕入債務の増減額(は減少)	3,230	1,402
その他	63	254
小計	484	670
利息及び配当金の受取額	23	22
利息の支払額	0	0
法人税等の支払額	340	350
営業活動によるキャッシュ・フロー	166	342
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	318	623
投資有価証券の取得による支出	102	22
その他	28	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	449	646
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)		50
配当金の支払額	191	321
自己株式の取得による支出	0	0
自己株式の処分による収入		799
財務活動によるキャッシュ・フロー	191	527
現金及び現金同等物に係る換算差額	180	40
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	293	264
現金及び現金同等物の期首残高	6,323	5,874
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,030	6,139

【注記事項】

(追加情報)

当社は、平成26年8月に中長期的な企業価値を高めることを目的として、従業員インセンティブ・プラン「株式付与E S O P信託」(以下「E S O P信託」といいます。)を導入していましたが、平成29年9月20日をもって当該信託は終了しております。

1. 取引の概要

「E S O P信託」では、当社が当社従業員のうち一定の要件を充足するものを受益者として、当社株式の取得資金を拠出することにより信託を設定します。当該信託は予め定める株式交付規程に基づき当社従業員に交付すると見込まれる数の当社株式を当社から取得します。その後、当該信託は、株式交付規程に従い、信託期間中の従業員の職位等に応じた当社株式を、在職時に従業員に交付します。当該信託により取得する当社株式の取得資金は全額当社が拠出するため、従業員の負担はありません。

2. 信託に残存する自社の株式

前連結会計年度において、信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度末73百万円、99,000株であります。なお、当第2四半期連結会計期間末においては、信託期間が終了しているため信託における帳簿価額及び期末株式数はありません。

3. 総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年7月1日 至 平成28年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年7月1日 至 平成29年12月31日)
給与手当・賞与	963百万円	1,000百万円
荷造運賃	489 "	533 "
支払手数料	342 "	417 "
研究開発費	705 "	529 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年7月1日 至 平成28年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年7月1日 至 平成29年12月31日)
現金及び預金	6,030百万円	6,139百万円
現金及び現金同等物	6,030百万円	6,139百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成28年7月1日 至 平成28年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たりの 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年9月27日 定時株主総会	普通株式	193	15.00	平成28年6月30日	平成28年9月28日	利益剰余金

(注) 平成28年9月27日定時株主総会決議による配当金の総額には、信託が保有していた自社の株式に対する配当金1百万円を含んでおります。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成29年7月1日 至 平成29年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たりの 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年9月26日 定時株主総会	普通株式	322	25.00	平成29年6月30日	平成29年9月27日	利益剰余金

(注) 平成29年9月26日定時株主総会決議による配当金の総額には、信託が保有していた自社の株式に対する配当金0百万円を含んでおります。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成28年7月1日至平成28年12月31日)

当社グループの事業はデジタル家電周辺機器の製造・販売事業の単一セグメントであるため、セグメント情報は記載していません。

当第2四半期連結累計期間(自平成29年7月1日至平成29年12月31日)

当社グループの事業はデジタル家電周辺機器の製造・販売事業の単一セグメントであるため、セグメント情報は記載していません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成28年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年7月1日 至平成29年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	74円10銭	56円73銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	948	754
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	948	754
普通株式の期中平均株式数(千株)	12,793	13,301

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。
2. 日本マスタートラスト信託銀行(株式付与ESOP信託口)が所有する当社株式は、1株当たり四半期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式数に含めております。
なお、1株当たり四半期純利益金額の算定上控除した当該自己株式の期中平均株式数は前第2四半期連結累計期間99,000株、当第2四半期連結累計期間40,765株であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年2月13日

株式会社アイ・オー・データ機器
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 陸 田 雅 彦 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高 村 藤 貴 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アイ・オー・データ機器の平成29年7月1日から平成30年6月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成29年10月1日から平成29年12月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成29年7月1日から平成29年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アイ・オー・データ機器及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。